

	一般的名称	報告の概要
105	レボホリナートカルシウム	未治療進行胃癌および胃食道接合部癌患者38例を対象としたセツキンマブ/フルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカンのPhase II 試験 (FOLCETUX)において、発熱性好中球減少症による死亡例が1例あった。
106	フェニトイン	妊娠中のフェニトイン、フェノバルビタール、ジアゼパムの使用による先天異常の可能性が示唆された。
107	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	進行性胃癌患者42例を対象としたセカンドライン治療としてのマイトマイシン/テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム併用療法のプロスペクティブPhase II 試験において、吐血により1例が死亡した。
108	ホリナートカルシウム	フルオロピリミジン/白金製剤/タキサン系薬剤による治療歴のある進行胃癌患者139例に対するフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン (FOLFIRI)により、好中球減少性敗血症により2例が死亡した。
109	ホリナートカルシウム	化学療法治療歴のある局所進行または転移性結腸直腸癌患者5176例を対象としたオキサリプラチン単独及びオキサリプラチン/フルオロウラシル/ロイコボリン併用療法の6レジメンにおいて、26例の死亡が認められた。
110	ホリナートカルシウム	前治療歴のある進行再発または転移性結腸直腸癌患者829例を対象にFOLFOX4、FOLFOX4/ベバシマブ、ベバシマブ単独のランダム化比較試験において、FOLFOX4、またはFOLFOX4/ベバシマブ群でグレード3-5の有害事象が認められた。
111	フルコナゾール	健常人12例を対象としたフルビプロフェンの薬物動態試験において、フルコナゾール併用により、フルビプロフェンのクリアランスが有意に減少し、AUCが有意に上昇することが示唆された。
112	ハロペリドール	高齢者にハロペリドールを使用した場合、死亡率が上昇することが示唆された。
113	プラバスタチンナトリウム	プラバスタチン療法を受けた高齢患者において、発癌のリスクが高まることが示唆された。
114	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェンによる薬物性肝障害をおこした24例中、6週間以内に4人が死亡した。
115	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェン中毒により急性肝不全を起こした患者25名のうち、4人が死亡した。
116	ケトプロフェン	NSAIDsの使用により、上部消化管合併症の発症リスクが高まることが示唆された。
117	ゾレドロン酸水和物	閉経後骨粗鬆症患者3889例を対象とした二重盲検プラセボ対照試験において、プラセボ群と比較してゾレドロン酸投与群で重篤な心房細動が有意に多かった。
118	塩酸バンコマイシン	バンコマイシンの最小阻害濃度(MIC)が4 µg/mL以上であるとき、黄色ブドウ球菌の分離株がバンコマイシン治療に反応しないことを示す微生物学および臨床データの増加のため、バンコマイシンのMICブレイクポイントが引き下げられた。
119	エストラジオール	ホルモン補充療法(HRT)は、卵巣癌の発症リスクを高めることが示唆された。
120	ホリナートカルシウム	前治療のない切除可能な転移性結腸直腸癌患者305例を対象としてフルオロウラシル/ロイコボリン/イリノテカン療法とフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較したランダム化比較試験において、前群で3.3%が、後群で2%が死亡した。
121	ホリナートカルシウム	治癒的切除を行った転移のない直腸癌患者1917例を対象とした併用療法の検討のためのPhase III試験において、フルオロウラシルボース投与群、フルオロウラシル持続静注/放射線併用群、フルオロウラシルボース投与/ロイコボリン/levamisole併用群において各5例ずつが死亡した。